

壮大なロマンのものを、子どもたちにいっぱいみせたい —— 赤羽末吉



生誕100年 赤羽末吉展 I ——絵本は舞台だ！——

後援：絵本学会・こどもの本WAVE・(社)全国学校図書館協議会・(社)日本国際児童図書評議会・日本児童図書出版協会・(社)日本図書館協会・長野県教育委員会・練馬区教育委員会・松川村

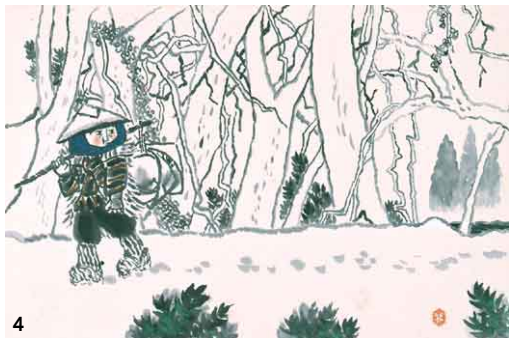
50歳のときに『かさじぞう』を出版して以来、日本の絵本の可能性を大きく切り開いた絵本画家・赤羽末吉。赤羽の絵本は、物語の卓越した解釈と演出力に特徴があります。物語の世界をより豊かに伝えるその絵本は、今も世代を超えて子どもたちに親しまれています。

ちひろ美術館は、1998年に赤羽末吉の全遺作約6900点の寄贈を受け、作品の調査を進めてきました。生誕100年を機に開催する本展では、代表的な絵本の原画、取材時のスケッチ、制作過程の資料など約150点を展示する他、画室の一部を復元し、絵本の演出家・赤羽末吉の画業に迫ります。

● 赤羽末吉 (あかば すえきち 1910～1990)



東京・神田に生まれる。1年ほど日本画を学び、以後独学。1932年、満州（現・中国東北部）に渡り、電信電話会社などの仕事の傍ら、日本画家として活躍。1947年帰国。1948年から69年までアメリカ大使館に勤務。1961年、50歳のときに絵本の処女作『かさじぞう』を出版。国際アンデルセン賞画家賞（1980年）をはじめ、国内外の受賞多数。



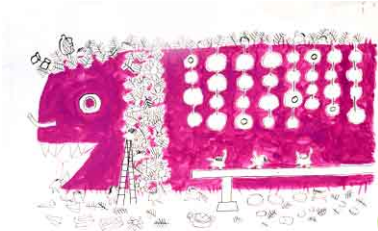
1.『そら、にげる』より 1978年 偕成社 2.『スーホの白い馬』より 1967年 福音館書店 3.『水仙月の四日』より 1969年 福音館書店 4.『かさじぞう』表紙 1960年 福音館書店 5.『だいくとおにろく』より 1962年 福音館書店

● 赤羽末吉展 II 2010年7月16日～9月28日 安曇野ちひろ美術館 同時展示：ちひろ・色の世界

* I、IIで、展示内容は異なります。

ちひろ美術館・東京 企画展

17:00~18:30



展 6/5(土) 6/19(土) 7/3(土) ...

17:15~18:15



4/28(水)・5/19(水)・6/3(木) 申込み受付開始

ちひろ美術館・東京 企画展 6/9(土) 14:00~

6/5(土) 11:00~11:40



1・3 j 14:00

11:00

ちひろ美術館・東京

ちひろ美術館・東京 NCBN



5月上旬発売
講談社刊 予価2800円(税別)
176p、B5版変型



100 刊 56

ちひろ美術館・東京 2010年5月2日(土) 7月1日(土)
10月17日(土)
800円
65円
100円
4月
4月

